資料７

報道発表資料
平成27年10月21日
気　　象　　庁

第133回火山噴火予知連絡会
全国の火山活動の評価

本日、第132回火山噴火予知連絡会（平成27年６月15日）以降の全国の火山活動について検討を行い、結果を以下のとおり取りまとめました。

○全国の主な火山活動

今期間（平成27年６月15日～10月21日）、口永良部島、桜島、箱根山、西之島、阿蘇山、諏訪之瀬島で噴火が発生しました。

口永良部島〔噴火警報（噴火警戒レベル５）〕については別に「口永良部島の火山活動に関する検討結果」として取りまとめました。

阿蘇山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル３）〕については別に「阿蘇山の火山活動に関する検討結果」として取りまとめました。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル３）〕８月15日に南岳直下を震源とする地震が多発し、マグマの貫入に伴うものとみられる山体膨張を示す急激な地殻変動が観測されました。その後マグマの浅部への上昇は停止し、新たなマグマの貫入も認められていません。

昭和火口の噴火活動は、７月以降は低調な活動となっています。南岳山頂火口では９月13日及び28日に噴火が発生しています。

姶良カルデラの膨張は続いており、また、長期的に活発な噴火活動が続いてきたことから、今後も活発な噴火活動が継続すると考えられますので、火山活動の推移に注意してください。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね２kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

西之島〔火口周辺警報（入山危険）〕西之島では噴石等を放出する噴火や溶岩の流出が続いています。９月16日時点で、新たな陸地の面積は約2.7km^{2}になっています。

島の中心から概ね４km以内では噴火に警戒してください。

御嶽山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル２）〕2014年10月以降噴火の発生はなく、火山活動が低下した状態が続いていますが、火口列からの噴煙活動や地震活動は続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

火口から概ね１kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

箱根山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル２）〕６月29日に傾斜変動を伴う火山性微動が発生し、地震活動も一時的に活発になりました。その後６月29日から７月１日にかけてごく小規模な噴火が発生したものとみられます。

５月以降にこの付近でみられた局所的な隆起と考えられる変化は７月以降認められず、GNSS連続観測でみられていた山体膨張を示す変動は８月下旬頃から停滞しています。

地震活動は低下傾向が見られますが、４月の活発化以前の程度に戻るまでは、大涌谷周辺の火口や噴気孔での小規模な噴火の可能性があると考えられます。また、噴気活動も緩

やかな低下傾向がみられるものの活発な状態です。
大涌谷周辺の想定火口域では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰、風に流されて降る小さな噴石及び火山ガスに注意してください。

草津白根山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル２）〕2014年３月上旬からの地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が鈍化しつつも継続しています。湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で熱活動の活発な状態が継続しています。また、北側噴気地帯の噴気活動が活発化し、ガス組成及び湯釜湖水の化学成分の活動活発化を示す変化が継続しています。
草津白根山では火山活動が活発化した状態が続いており、小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね１kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

吾妻山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル２）〕火山性地震はやや多い状態で経過しています。大穴火口の噴気活動や熱活動はやや活発な状態が続いています。一方、GNSS観測及びSAR干渉解析で2014年９月頃からみられていた一切経山付近の膨張を示す変化は、GNSS連続観測や傾斜観測によれば、2015年７月頃から停滞しています。
大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

浅間山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル２）〕６月16日及び19日に山頂火口でごく小規模な噴火が発生しました。二酸化硫黄放出量は６月以降１日あたり概ね1,000トンを超える多い状態が続いています。火山性地震は４月下旬頃から多い状態が続いています。地殻変動観測では、浅間山の西側のやや深い所や山頂付近のごく浅い所の膨張を示すとみられる変化が観測されています。
火口から概ね２kmの範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。登山者等は危険な地域には立ち入らないよう地元自治体等の指示に従ってください。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

雌阿寒岳〔火口周辺警報（噴火警戒レベル２）〕７月13日から８月中旬にかけて、ポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする微小な火山性地震が増加しました。７月末以降の観測で、ポンマチネシリ第３及び第４火口の地熱域の拡大、96-1火口の噴煙の勢いの増大が認められています。全磁力連続観測では、2015年３月中旬以降、ポンマチネシリ96-1火口近傍の地下で熱活動が活発化している可能性を示す変化がみられています。
ポンマチネシリ火口から約500ｍの範囲では、ごく小さな噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

諏訪之瀬島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル２）〕御岳火口では、９月24日に爆発的噴火が69回発生するなど、活発な噴火活動が継続しています。
今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね１kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

各地方の主な活火山の火山活動評価

１．　北海道地方

①アトサヌプリ　［噴火予報（活火山であることに留意）］

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②雌阿寒岳　［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］ ←平成27年７月28日に噴火警戒レベルを１（活火山であることに留意）から２（火口周辺規制）に引上げ

・７月13日から、ポンマチネシリ火口付近の浅い所を震源とする微小な火山性地震が一時的に増加し、その後やや減少したものの、７月26日から再び地震回数が増加しました。

・7月27日の上空からの観測及び7月28日の現地調査で、ポンマチネシリ第３・第４火口で地熱域が拡大し、96-1火口の噴煙の勢いが増大しているのが認められました。

・全磁力連続観測では、2015年３月中旬以降、ポンマチネシリ96-1火口近傍の地下で熱活動が活発化している可能性を示す変化がみられています。

・これらのことから、ごく小規模な水蒸気噴火の発生する可能性があると考えられ、気象庁は７月28日に火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）を発表しました。

・今回の活動について2008年の噴火前の活動と比較すると、地震活動、地熱域の広がりのいずれも小規模なものに留まっていますが、地震活動は８月下旬以降少ない状態ながらも継続しており、全磁力の変化も続いています。10月１日の現地調査でも、ポンマチネシリ第４火口の地熱域のわずかな拡大や96-1火口からの噴煙の勢いの増大が認められています。

・ポンマチネシリ火口から約500ｍの範囲では、ごく小さな噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

③大雪山　［噴火予報（活火山であることに留意）］

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

④十勝岳　［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

・８月３日及び９月17日に実施した上空からの観測や、６月から９月にかけて実施した現地調査で、振子沢噴気孔群で地熱域の広がりを観測しました。また、７月及び９月に実施したガス観測では二酸化硫黄の放出量が４月の観測に比べて増加しているのを確認しました。62-2火口とその周辺では熱活動が徐々に高まっていると考えられます。全磁力観測でも熱活動の高まりに関連すると思われる変化を観測しています。

・地殻変動観測では、62-2火口近傍のGNSS観測点で山体浅部の局所的な膨張によるとみられる変動が2015年５月頃から大きくなっていましたが、７月以降鈍化しています。SAR干渉解析でも山体浅部の局所的な膨張がみられています。

・ここ数年、山体浅部の膨張、大正火口の噴煙量増加、地震増加、火山性微動の発生、発光現象及び地熱域の拡大などを確認しており、長期的にみると火山活動は高まる傾向にあるので、今後の火山活動の推移に注意してください。

⑤樽前山　［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

・火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

・山頂溶岩ドーム周辺では、1999年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意してください。

⑥倶多楽　[噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）]
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑦有珠山　[噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）]
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧北海道駒ヶ岳　[噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）]
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨恵山　[噴火予報（活火山であることに留意）]
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

２．東北地方

①　岩木山　[噴火予報（活火山であることに留意）]
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②八甲田山　[噴火予報（活火山であることに留意）]
・地獄沼東岸で地熱域の拡大が確認されましたが、地震活動や地殻変動などのその他の火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③　秋田焼山　[噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）]
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

④　岩手山　[噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）]
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑤　秋田駒ヶ岳　[噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）]
・女岳では、2009年以降拡大した地熱域が引き続き確認され、一部の地熱域でわずかな拡大が認められました。
・地震活動は、一時的に増加することもありましたが概ね低調で、地殻変動にも特段の変化はみられませんでした。地熱活動が続いていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

⑥　鳥海山　[噴火予報（活火山であることに留意）]
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑦　栗駒山　[噴火予報（活火山であることに留意）]
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧　蔵王山　[噴火予報（活火山であることに留意）]

・2015年４月以降増加していた御釜付近が震源とみられる火山性地震は、６月中旬から７月上旬にかけて比較的多い状態となりましたが、それ以外の期間は少ない状態で経過しました。
・７月７日から９日にかけて実施したGNSS繰り返し観測では、前回の観測（2014年８月）と比較して御釜周辺の基線で伸びの変化がみられました。また、GNSS連続観測では、山腹の基線で2014年10月以降わずかな膨張を示す変化がみられていましたが、2015年６月頃から停滞しています。
・９月の現地観測において、振子沢付近の枯渇していた温泉地で、温泉の湧出を確認しました。
・2013年以降、火山性地震の増加や火山性微動の発生が観測されており、長期的にみると火山活動はやや高まった傾向にありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

⑨　吾妻山　［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

・火山性地震は、６月には月回数255回と多い状態でしたが、７月以降は増減を繰り返しやや多い状態で経過しました。
・６月に実施した大穴火口付近のGNSS繰り返し観測では、前回（2014年10月31日～11月３日）の観測以降、大穴火口を挟む基線で伸びを示す変化がみられました。また、GNSS連続観測では、2014年９月頃から一切経山付近の膨張を示す緩やかな変化がみられていましたが、2015年６月頃から停滞しています。
・浄土平(じょうどだいら)観測点（大穴火口の東南東約１km）の傾斜計では、2014年７月下旬から西南西（大穴火口のやや南）上がりの変化が継続していましたが、2015年７月頃から停滞しています。
・８月及び10月に実施した現地観測では、大穴火口内で地熱域の拡大と火口内及びその周辺で弱い噴気を確認しました。その他の地熱域に大きな変化は認められません。大穴火口の噴気活動や熱活動はやや活発な状態が続いています。
・2003年より大穴火口周辺で実施している全磁力繰り返し観測では、2014年10月から2015年８月にかけて大穴火口周辺の地下の熱活動の活発化を示す可能性がある変化が観測されています。
・大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

⑩　安達太良山　［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑪　磐梯山　［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

３．関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

①　那須岳　［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

② 日光白根山 ［噴火予報（活火山であることに留意）］
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③ 草津白根山 ［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］
・2014年３月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加していましたが、2014年８月下旬以降概ねやや少ない状態で経過しています。
・６月28日に継続時間約２分の火山性微動が発生しました。火山性微動の発生前後で地震活動やその他の観測データに変化はみられませんでした。
・GNSSによる地殻変動観測では、2014年４月頃から湯釜を挟む基線でわずかな伸びの傾向がみられていましたが、短い基線では2015年４月頃、長い基線では８月頃より停滞しています。
・湯釜周辺の傾斜計の湯釜付近の膨張を示す変動は鈍化しながらも引き続き認められています。
・2014年５月頃から湯釜近傍地下の岩石の熱消磁によると考えられる全磁力変化がみられていましたが、７月以降は停滞しています。
・湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で熱活動の活発な状態が継続しています。また、2015年９月以降、北側噴気地帯で噴気活動が活発になっています。
・2014年５月以降、北側噴気地帯の硫化水素ガス成分の減少した状態が継続しています。
・草津白根山の火山活動は活発化した状態が続いており、小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね１kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

④ 浅間山 ［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］
・６月16日及び19日に山頂火口でごく小規模な噴火が発生しました。
・６月以降火口底の温度の上昇がみられており、６月16日以降は、高感度カメラで確認できる程度の弱い火映を、夜間に時々観測しています。
・二酸化硫黄放出量は、６月に入って急増し、その後１日あたり概ね1,000トンを超える状態が続いています。
・火山性地震は４月下旬から増加し、その後も多い状態が続いています。発生している地震はその多くがBL型地震ですが、７月から８月にかけてはBH型地震も増加しました。火山性微動も2014年頃から増加する傾向がみられています。
・光波測距観測による地殻変動観測では、６月頃から山頂と追分の間で縮みの傾向がみられており、山頂付近のごく浅い所の膨張によるものと考えられます。
・傾斜計による地殻変動観測では、６月上旬頃からの緩やかな変化が継続しています。山体周辺のGNSSによる地殻変動観測でも、５月頃からわずかな伸びがみられます。これらは浅間山の西側のやや深い所を膨張源とする変化によるものと考えられます。
・火口から概ね２kmの範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。登山者等は危険な地域には立ち入らないよう地元自治体等の指示に従ってください。
・風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

⑤ 新潟焼山 ［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑥ 弥陀ヶ原 ［噴火予報（活火山であることに留意）］
・弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過しています。
・立山地獄谷では以前から熱活動が活発でしたが、2012年６月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されており、今後の火山活動の推移に注意してください。また、この付近では火山ガスに注意してください。

⑦ 焼岳 ［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧ 乗鞍岳 ［噴火予報（活火山であることに留意）］
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨ 御嶽山 ［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］←平成27年６月26日に噴火警戒レベルを３（入山規制）から２（火口周辺規制）に引下げ。
・今期間、噴火は発生しませんでした。火山活動が低下した状態が続き、昨年（2014年）10月以降噴火が発生していないことから、昨年９月27日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられます。
・このことから、気象庁は６月26日に火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）を発表しました。
・剣ヶ峰山頂の南西側の火口列からの噴煙は、高さ火口縁上概ね100～1,000ｍで経過しています。
・７月20日04時54分に継続時間約３分の火山性微動が発生しました。この火山性微動の発生に伴い、傾斜計にわずかな山側（北西）上がりの変化が観測されました。火山性微動の発生時の遠望カメラによる噴煙の状況は、視界不良のため確認できませんでしたが、空振計の観測データに特段の変化はみられませんでした。
・火山性微動の発生直後を含め、７月19日から20日にかけて、地震回数が一時的に増加しました。低周波地震は、６月に５回、７月に２回、８月に１回観測しています。いずれも振幅は小さく、発生前後で他のデータに特段の変化はみられていません。
・火口列からの噴煙活動や地震活動は続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。
・火口から概ね１kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

⑩ 白山 ［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑪ 富士山 ［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］
・2011年３月15日に山頂の南南西約５km、深さ15kmを震源とする静岡県東部の地震（マグニチュード6.4、最大震度６強）が発生しました。それ以降、その震源から山頂直下付近にかけて地震活動が活発な状況となりました。その後、地震活動は低下しつつも継続しています。
・その他の観測データに異常を示すものはなく、噴火の兆候は認められません。

⑫ 箱根山 ［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］←平成27年６月30日に噴火警戒レベルを２（火口周辺規制）から３（入山規制）に引上げ。平成27年９月11日に噴火警戒レベルを３（入山規制）から２（火

口周辺規制）に引下げ。
・４月下旬以降、地震活動の活発化、地殻変動及び勢いの強い蒸気の噴出が観測されていましたが、６月に入って地震回数には減少傾向がみられていました。
・６月29日07時32分から継続時間約５分の火山性微動が発生しました。火山性微動の発生に伴い、地下浅部の体積膨張を示す地殻変動が観測されました。この火山性微動の発生以降一時的に地震活動が活発になりました。
・６月29日から翌30日にかけての現地調査で、火山灰の降下を観測しました。また、新たな噴気孔（火口）を確認し、この期間にごく小規模な噴火が発生したものとみて、気象庁は６月30日に火口周辺警報を発表して、噴火警戒レベルを２（火口周辺規制）から３（入山規制）に引き上げました。
・ごく小規模な噴火は、６月29日から７月１日にかけて断続的に発生したものとみられます。その後噴火は観測されていません。
・SAR干渉解析によりみられていた局所的な隆起を示すと考えられる変化は７月頃以降認められません。また、GNSS連続観測でみられていた箱根山を挟む基線での伸びは８月下旬頃から停滞しています。
・このほか地震活動も低下傾向にあったことから、気象庁は９月11日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを３（入山規制）から２（火口周辺規制）に引き下げました。
・地震活動は引き続き低下傾向がみられるものの、４月の活発化以前の程度に戻るまでは、引き続き大涌谷周辺の火口や噴気孔での小規模な噴火の可能性があると考えられます。また、噴気活動も緩やかな低下傾向がみられるものの活発な状態です。
・大涌谷周辺の想定火口域では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。
・風下側では火山灰、風に流されて降る小さな噴石及び火山ガスに注意してください。

⑬ 伊豆東部火山群　[噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）]
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑭ 伊豆大島　[噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）]
・地殻変動観測によると、短期的な膨張や収縮があるものの、長期的には、地下深部へのマグマ供給によると考えられる島全体の膨張傾向が継続しています。
・その他の観測データには特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。長期的には山体の膨張が継続していることから、今後の火山活動に注意してください。

⑮ 新島［噴火予報（活火山であることに留意）］
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑯ 神津島［噴火予報（活火山であることに留意）］
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑰ 三宅島　[噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）]
・噴火は2013年１月22日を最後に発生していません。
・噴煙は白色で、高さは火口縁上概ね300m以下で経過しています。
・山頂浅部を震源とする地震は概ね少ない状態で経過しています。
・二酸化硫黄の放出量は長期的には緩やかな減少傾向にあり、７月21日に実施した現

地調査では、１日あたり400トンと、やや少ない状態でした。
・GNSSによる観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013年頃から停滞しています。一方、島内の長距離の基線で2006年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続しています。
・主火孔における噴煙活動及び火山ガスの放出が継続していることから、規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性があります。

⑱ 八丈島 ［噴火予報（活火山であることに留意）］
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑲ 青ヶ島［噴火予報（活火山であることに留意）］
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑳ 西之島 ［火口周辺警報（入山危険）］
・2013年11月20日に西之島の南東海上で確認された噴火では、噴石等を放出する爆発的噴火や溶岩の流出により新島が拡大し、2013年12月26日には西之島旧島と一体となりました。
・その後も噴火活動は継続し、新たに形成された陸地（西之島旧島と接続した新島部分）の拡大が確認されており、西之島旧島のほとんどを埋没させています。2015年９月16日時点で、新たに形成された陸地の面積は約2.7km^{2}になっています。
・西之島では噴火が継続しており、島の中心から概ね４km以内では噴火に警戒してください。

21 硫黄島 ［火口周辺警報（火口周辺危険）］
・海上自衛隊からの情報提供によると、島北部の北の鼻の海岸付近で８月７日にごく小規模な噴火が発生し、噴煙が高さ100m程度上がりました。８月８日以降噴火は発生していません。
・島西部の旧火口（通称：ミリオンダラーホール）では、2013年４月12日以降、噴火は確認されていませんが、現地調査及び海上自衛隊からの情報提供によると、８月に噴気が上がっているのを確認しています。
・地震活動はやや少ない状態で推移しています。火山性微動は時々観測されています。島北部で噴火が発生した８月７日には火山性微動を連続的に観測しました。
・GNSSによる地殻変動観測では、2014年２月下旬頃から隆起・停滞を繰り返し、2015年３月頃から隆起速度が上がっています。また、４月中旬から西向きの変動速度が上がっていましたが、７月以降は以前の速度に戻っています。
・硫黄島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生した地点およびその周辺では警戒してください。

22 福徳岡ノ場 ［噴火警報（周辺海域警戒）］
・長期間にわたり変色水が確認されており、小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では警戒してください。

４．九州地方・南西諸島

① 鶴見岳・伽藍岳 ［噴火予報（活火山であることに留意）］
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

② 九重山　［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
・GNSS連続観測によると、2012年頃からわずかに伸びの傾向が認められますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

③ 阿蘇山　［火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）］←平成27年９月14日に噴火警戒レベルを２（火口周辺規制）から３（入山規制）に引上げ
・中岳第一火口では、６月10日に141火孔内の一部に湯だまりを確認し、７月23日以降はごく小規模な土砂噴出を確認しました。７月31日以降は、141火孔南西側に約600℃の高温の噴気孔を確認しました。８月８日、9月３日及び９月10日から11日かけてごく小規模な噴火が発生しました。
・南側火口壁からは、白色の噴気や青白色のガスが噴出しており、熱異常域の最高温度は約300～400℃と高い状態が続きました。
・火山性微動の振幅は７月14日以降小さくなっていましたが、９月11日頃からやや大きくなりました。孤立型微動は概ね多い状態で経過しました。中岳第一火口付近のごく浅い所を震源とする火山性地震が９月６～10日に一時的に増加しました。
・９月14日09時43分に中岳第一火口で噴火が発生し、灰色の噴煙が火口縁上2,000ｍまで上がりました。この噴火に伴い小規模な火砕流が発生し、火口周辺に流下しました。また、大きな噴石が火口周辺に飛散するのを確認しました。
・気象庁は、今後も同程度の噴火が発生し、火砕流の流下や弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から１kmを超える可能性があると判断し、同日火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを２（火口周辺規制）から３(入山規制)に引き上げました。
・この噴火発生直後に、九州地方整備局の協力で気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した上空からの観測により、中岳第一火口周辺に変色域が広がっており、その範囲が南東方向に約1.3km、北東方向に約1.0kmであるのを確認しました。この変色域は概ね火砕流が流下した範囲に対応すると考えられます。
・噴火が発生した９月14日に実施した現地調査及び聞き取り調査によると、火口より西側の熊本県北部から福岡県の一部で降灰を確認しました。
・この噴火はマグマ水蒸気噴火とみられ、その噴出量は約４万トンと推定されています。
・火山性微動の振幅は、９月14日11時頃以降概ね小さな状態となっていましたが、10月１日以降は振幅の急激な増減がみられています。また、火山性微動の振幅が大きくなると噴煙の勢いが増す傾向が認められます。
・二酸化硫黄放出量は、期間をとおして１日あたり900～1,900トンと多い状態が続いています。
・GNSS連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線の伸びは、2015年３月頃から停滞していましたが、８月頃から再びわずかな伸びがみられています。
・以上のように、阿蘇山では活発な火山活動が続いており、当分の間は９月14日と同程度の噴火が発生する可能性がありますので、火口から概ね２kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

④ 雲仙岳　［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
・長期的には2010年頃から火山性地震の活動がやや活発となっており、また、GNSS連

続観測では、山体西側の基線で、2015年６月頃から、わずかな伸びの傾向が認められますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

⑤ 霧島山

新燃岳　[火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）]

・新燃岳では、2011年９月７日を最後に噴火は発生していません。
・７月６日には白色の噴煙が火口縁上400ｍまで上がりました。火口にたまった溶岩内部には依然高温状態の部分もあると考えられます。
・新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は時々発生しました。火山性微動は３月１日に発生して以降、観測されていません。
・GNSS観測によると、新燃岳の北西数km（えびの高原付近）の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2015年１月頃から停滞しています。一方、新燃岳周辺の一部の基線では、わずかに伸びの傾向がみられます。
・今後も火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から概ね１kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。噴火時には、風下側では火山灰だけではなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には泥流や土石流に注意してください。

御鉢　[噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）]

・９月15日に火山性地震が20回と一時的に増加しました。地震の日回数が20回以上となったのは、2010年５月２日の21回以来です。その他の観測結果に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
・火山性地震は７月頃からわずかに増加していますので、今後の火山活動の推移に注意してください。
・活火山であることから、規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性がありますので、留意してください。

えびの高原（硫黄山）周辺　[噴火予報（活火山であることに留意）]

・７月26日、９月２日及び10月19日にそれぞれ１回、継続時間が最長約３分30秒の火山性微動が発生しました。震源はいずれも硫黄山付近とみられます。この火山性微動に伴って、硫黄山の北西がわずかに隆起することを示す傾斜変動が観測されましたが、いずれも2014年８月20日の火山性微動に比べて小さな変動でした。
・火山性地震は７月５日、26日及び10月19日に一時的に増加しました。
・GNSS連続観測では、えびの高原（硫黄山）周辺の一部の基線でわずかに伸びの傾向が認められ、水準測量でも周辺領域のわずかな隆起が観測されています。
・現地調査では、噴気や熱異常域は認められていません。
・７月及び９月に実施した全磁力繰り返し観測では、硫黄山の北側の観測点で、南側の観測点に比べてわずかな増加を示す変化がみられており、今後の推移に注意が必要です。
・活火山であることから、規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性がありますので、留意してください。

⑥ 桜島　[火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）] ←平成27年８月15日に噴火警戒レベルを３（入山規制）から４（避難準備）に引上げ、９月１日にレベル４（避難準備）から３（入山規制）に引下げ

・８月15日07時頃から南岳直下を震源とする火山性地震が多発しました。更に同日09

時頃から、桜島島内に設置している傾斜計及び伸縮計で、山体膨張を示す急激な地殻変動が観測されました。このため、気象庁では、同日噴火警報(居住地域)を発表し、噴火警戒レベルを３(入山規制)から４(避難準備)に引き上げました。
・これらの活動は、南岳直下の海面下１～３km を中心とする領域にマグマがダイク状に貫入して、圧力が増加したことによるものと考えられます。干渉SARとGNSSを用いた解析では、その体積膨張量は約200 万立方メートルと見積もられています。
・南岳直下で多発した火山性地震は翌16日以降急激に減少し、傾斜計等の地殻変動観測によると、８月17日以降地盤の顕著な隆起を示す変化はみられていません。
・このことから、南岳直下のマグマの浅部への上昇は停止し、深部からの新たなマグマの貫入も生じていないと考えられます。気象庁では、桜島の火山活動が噴火警戒レベルを４に引き上げる前の状態に戻ったものと判断し、９月１日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを３（入山規制）に引き下げました。
・昭和火口の噴火活動は９月上旬に一時的に活発化したものの、７月以降はこれまでと比べて低調な活動となりました。
・南岳山頂火口では、９月13日及び28日に噴火が発生し、そのうち９月28日02時33分の噴火では噴煙が火口縁上2,700ｍまで上がりました。そのほかにも８月と９月にごく小規模な噴火が時々発生しました。
・火山性地震は８月15日に多発したほかは概ね少ない状況ですが、９月に入ってから従来の南岳直下に加えて、南岳の西方約２km、深さ４km付近でＡ型地震が時々発生しています。
・姶良カルデラの膨張を示す伸びの傾向は、2013 年６月頃から停滞していましたが、2015 年１月頃から伸びの傾向が続いています。
・１日あたりの二酸化硫黄放出量は、６月は多い状態でしたが、７月から８月かけて減少して少ない状態となり、９月はやや少ない状態となっています。
・以上のように、桜島の噴火活動は、７月以降は概ね低調な状態となっていますが、姶良カルデラの膨張が続いており、また、長期的に活発な噴火活動が続いてきたことから、今後も活発な噴火活動が継続すると考えられます。また、再びマグマが貫入した場合などには、火山活動の更なる活発化は避けられないものとみられ、引き続き火山活動の推移を注意深く監視していく必要があります。
・昭和火口及び南岳山頂火口から概ね２kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。
・爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

⑦ 薩摩硫黄島　[噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）]
・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
・硫黄岳火口では、噴煙活動が続いており、火口内では火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

⑧ 口永良部島　[噴火警報（噴火警戒レベル５、避難）]
・６月18日12時17分頃に噴火が発生しました。天候不良のため噴煙の状況は不明でしたが、火山性微動の発生状況から同日12時47分まで継続していたと考えられます。この噴火に伴い、新岳北東山麓観測点（新岳火口から北東約2.3km）で、19.4Paの空振を観測し、傾斜計では火口方向が下がる変動を観測しました。島の東海上（新岳

火口から約９km）の巡視船で、この噴火に伴う最大2.5cm程度の小さな噴石が降ったのを確認しています。同日実施した現地調査及び聞き取り調査では、屋久島町、西之表市及び中種子町で降灰を確認しました。その後の上空からの観測では、新岳火口周辺や山体斜面に新たな火砕流の痕跡等は認められず、熱異常域はこれまでと変化はありませんでした。
・火山性地震は、８月上旬まで時々多く発生していましたが、その後は少なくなりました。また、やや周期の長い火山性地震が時々発生しました。火山性地震の震源は、新岳付近のごく浅い所とみられます。
・１日あたりの二酸化硫黄放出量は、６月は800～1,700トンでしたが、次第に減少し、９月には概ね100～200トンとやや少ない状況となりました。
・５月29日の噴火以降火映は観測されておらず、９月の現地調査では、新岳火口の西側割れ目付近の熱異常域の温度の低下が認められています。
・GNSS連続観測では、５月29日の噴火以降に特段の変化は認められません。３月頃までにみられていた島の隆起を示す変動はその後停滞しています。
・５月29日と同程度の噴火が発生する可能性は低くなっていると考えられますが、５月29日の噴火前にみられた島の隆起が維持されていることから、今後も噴火が発生する可能性があります。大きな噴石の飛散が予想される新岳火口から概ね２kmの範囲及び火砕流の流下による影響が及ぶと予想される新岳火口の西側の概ね2.5kmの範囲では厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。
・風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には土石流の可能性があるため注意してください。

⑨ 諏訪之瀬島　［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

・御岳火口では、９月24日に爆発的噴火が69回発生するなど、活発な噴火活動が継続しました。爆発的噴火の日回数が50回以上となったのは、2013年12月30日の66回以来です。
・噴火に伴う噴煙の高さの最高は、９月25日の火口縁上1,500ｍでした。また、同火口では夜間に遠望カメラ（高感度カメラ）で火映を時々観測しました。
・十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、集落（御岳の南南西約４km）で時々降灰が観測されました。
・火山性地震はやや少ない状態で経過しました。火山性微動は、断続的に発生しました。
・諏訪之瀬島では、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね１kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

注）噴火警戒レベルは平成27年10月21日現在、32火山で運用しています。

全国の活火山の噴火警報及び噴火予報発表状況（10月21日09時現在）

地方	火山名	現　在 (ここで示すレベルは噴火警戒レベルである)	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
北海道地方	アトサヌプリ	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	雌阿寒岳	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 噴火予報（平常） 2008年９月29日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年10月17日 噴火予報（平常） 2008年11月17日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年12月16日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年４月10日 噴火予報（レベル１、平常） 2015年７月28日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	大雪山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	十勝岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常） 2008年12月16日 噴火予報（レベル１、平常） 2014年12月16日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2015年２月24日 噴火予報（レベル１、平常）
	樽前山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	倶多楽	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常） 2015年10月１日 噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	有珠山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常） 2008年６月９日 噴火予報（レベル１、平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	恵山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
東北地方	岩木山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	八甲田山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	秋田焼山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常） 2013年７月25日 噴火予報（レベル１、平常）
	岩手山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	秋田駒ヶ岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常） 2009年10月27日 噴火予報（レベル１、平常）
	鳥海山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	栗駒山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	蔵王山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常） 2015年４月13日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2015年６月16日 噴火予報（活火山であることに留意）
	吾妻山	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常） 2014年12月12日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	安達太良山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常） 2009年３月31日 噴火予報（レベル１、平常）
	磐梯山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常） 2009年３月31日 噴火予報（レベル１、平常）
関東・中部地方	那須岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常） 2009年３月31日 噴火予報（レベル１、平常）
	日光白根山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	草津白根山	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常） 2009年４月10日 噴火予報（レベル１、平常）切替 2014年６月３日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	浅間山	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常） 2008年８月８日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年２月１日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）

	火山名	現　在 (ここで示すレベルは噴火警戒レベルである)	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
関東・中部地方・伊豆・小笠原諸島			2009年２月３日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2009年４月７日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2010年４月15日　噴火予報（レベル１、平常） 2015年６月11日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	新潟焼山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2011年３月31日　噴火予報（レベル１、平常）
	弥陀ヶ原	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	焼岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2011年３月31日　噴火予報（レベル１、平常）
	乗鞍岳	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	御嶽山	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2008年３月31日　噴火予報（レベル１、平常） 2014年９月27日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2014年９月28日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2015年１月19日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2015年３月31日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2015年６月26日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	白山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2015年９月２日　噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	富士山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常）
	箱根山	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2009年３月31日　噴火予報（レベル１、平常） 2015年５月６日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2015年６月30日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2015年９月11日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	伊豆東部火山群	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2011年３月31日　噴火予報（レベル１、平常）
	伊豆大島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常）
	新島	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	神津島	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	三宅島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年３月31日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2015年６月５日　噴火予報（活火山であることに留意）
	八丈島	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	青ヶ島	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	西之島	火口周辺警報（入山危険）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2013年11月20日　火口周辺警報（火口周辺危険） 2014年６月３日　火口周辺警報（入山危険） 2014年６月11日　火口周辺警報（入山危険）切替
	硫黄島	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月１日　火口周辺警報（火口周辺危険）
	福徳岡ノ場	噴火警報（周辺海域警戒）	2007年12月１日　噴火警報（周辺海域警戒）
九州地方・南西諸島	鶴見岳・伽藍岳	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	九重山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常）
	阿蘇山	火口周辺警報 （レベル３、入山規制）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常） 2011年５月16日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2011年６月20日　噴火予報（レベル１、平常） 2013年９月25日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2013年10月11日　噴火予報（レベル１、平常） 2013年12月27日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）

	火山名	現　在 (ここで示すレベルは噴火警戒レベルである)	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
九州地方・南西諸島			2014年３月12日　噴火予報（レベル１、平常） 2014年８月30日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2015年９月14日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）
	雲仙岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常）
	霧島山（新燃岳）	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常） 2008年８月22日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年10月29日　噴火予報（レベル１、平常） 2010年３月30日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2010年４月16日　噴火予報（レベル１、平常） 2010年５月６日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2011年１月26日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2011年１月31日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2011年２月１日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2011年３月22日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2012年６月26日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2013年10月22日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	霧島山（御鉢）	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常）
	霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2014年10月24日　火口周辺警報（火口周辺危険） 2015年５月１日　噴火予報（平常）
	霧島山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	桜島	火口周辺警報 （レベル３、入山規制）	2007年12月１日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年２月３日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年２月20日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年４月８日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年７月14日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年７月28日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年８月28日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年２月２日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年２月19日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年３月２日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年３月10日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2009年４月24日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年７月19日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2010年９月30日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2010年10月13日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2012年３月12日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2012年３月21日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2015年８月15日　火口周辺警報（レベル４、避難準備） 2015年９月１日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）
	薩摩硫黄島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2012年11月29日　噴火予報（レベル１、平常） 2013年６月４日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2013年７月10日　噴火予報（レベル１、平常）
	口永良部島	噴火警報（レベル５、避難）	2007年12月１日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年１月25日　噴火予報（レベル１、平常） 2008年９月４日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年10月27日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年３月18日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年８月４日　噴火予報（レベル１、平常）

	火山名	現　在 (ここで示すレベルは噴火警戒レベルである)	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
九州地方・南西諸島			2009年９月27日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年10月30日 噴火予報（レベル１、平常） 2011年12月15日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2012年１月20日 噴火予報（レベル１、平常） 2014年８月３日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2014年８月７日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2015年５月29日 噴火警報（レベル５、避難）
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）

注）噴火警報及び噴火予報の発表履歴は、2007年12月１日以降のものを記載しています。
2015年５月18日から（平常）は（活火山であることに留意）に変更しています。

上記以外の活火山では2007年12月１日に噴火予報（平常*）を発表し、その後、予報事項に変更はありません。

地　方	火　山　名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山**、摩周、雄阿寒岳**、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、十和田、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方 及び伊豆・小笠原諸島	高原山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、アカンダナ山、利島、御蔵島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山

＊　2015年５月18日から（平常）は（活火山であることに留意）に変更しています。
＊＊ 天頂山と雄阿寒岳は2011年６月７日に活火山として追加し、噴火予報（平常）を発表しました。

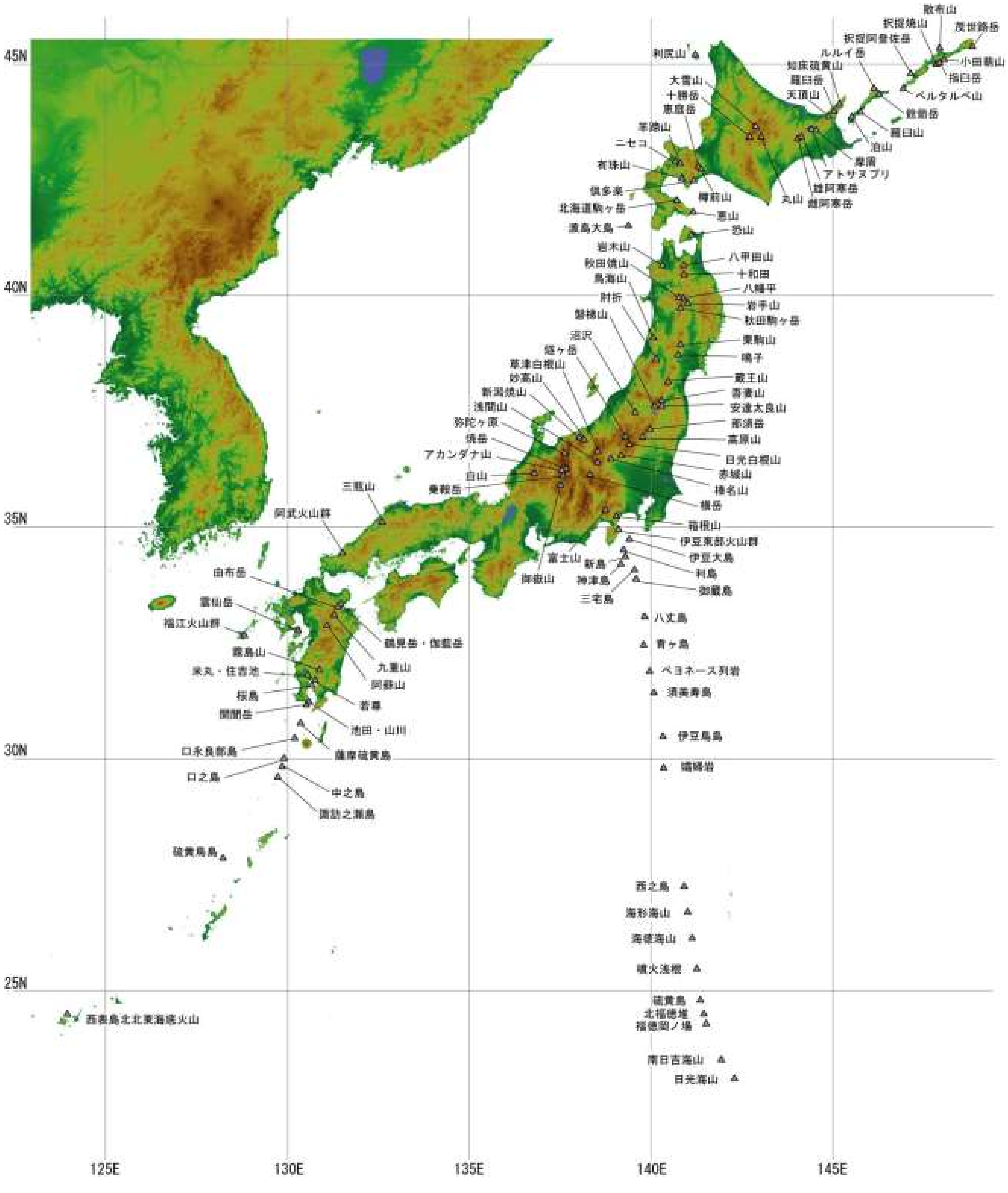
45N
40N
35N
30N
25N
125E
130E
135E
140E
145E
利尻山
散布山
択捉焼山
茂世路岳
択捉阿登佐岳
ルルイ岳
小田萌山
知床硫黄山
指臼岳
羅臼岳
ベルタルベ山
天頂山
大雪山
十勝岳
恵庭岳
爺爺岳
羅臼山
羊蹄山
泊山
ニセコ
摩周
有珠山
アトサヌプリ
倶多楽
雄阿寒岳
樽前山
丸山
雌阿寒岳
北海道駒ヶ岳
恵山
渡島大島
恐山
岩木山
八甲田山
秋田焼山
十和田
鳥海山
八幡平
肘折
岩手山
磐梯山
秋田駒ヶ岳
沼沢
栗駒山
燧ヶ岳
鳴子
草津白根山
妙高山
蔵王山
新潟焼山
吾妻山
浅間山
安達太良山
弥陀ヶ原
那須岳
焼岳
高原山
アカンダナ山
日光白根山
白山
赤城山
乗鞍岳
榛名山
三瓶山
横岳
阿武火山群
箱根山
伊豆東部火山群
富士山
伊豆大島
新島
由布岳
御嶽山
神津島
利島
三宅島
御蔵島
雲仙岳
八丈島
福江火山群
鶴見岳・伽藍岳
青ヶ島
霧島山
九重山
米丸・住吉池
ベヨネース列岩
阿蘇山
須美寿島
桜島
若尊
開聞岳
池田・山川
伊豆鳥島
口永良部島
薩摩硫黄島
孀婦岩
口之島
中之島
諏訪之瀬島
硫黄鳥島
西之島
海形海山
海徳海山
噴火浅根
硫黄島
北福徳堆
福徳岡ノ場
南日吉海山
日光海山
西表島北北東海底火山

図　全国の活火山分布